

公益社団法人日本臨床細胞学会
平成 26 年度第 2 回理事会 議事録

日時：平成 26 年 11 月 7 日（金）14:00～16:30
場所：リーガロイヤルホテル小倉
ロイヤルホール（4 階）

出席者：理事 32 名、監事 3 名

(理事長)佐々木寛

(理事)岩坂剛，土屋眞一，若狭研一，青木大輔，佐藤之俊，紀川純三，池田徳彦，
竹島信宏，植田政嗣，齋藤豪，内藤善哉，川本雅司，鈴木光明，児玉省二，方山揚誠，
根本則道，亀井敏昭，加来恒壽，覚道建一，横山繁生，白石泰三，河原栄，広岡保明，
稲山嘉明，伊藤潔，羽場礼次，関根浄治，中村直哉，是松元子，石井保吉，伊藤仁，
(監事)長村義之，柏村正道，長谷川壽彦

(総務委員会幹事)大澤政彦，加藤久盛，渋田秀美，服部学，山下博

(制度審議委員会幹事)平田哲士

欠席者：理事 7 名

(理事)越川卓，八重樫伸生，寒河江悟，落合和彦，生水真紀夫，森谷卓也，岡本愛光

(総務委員会幹事)板持広明，土居大祐，星利良

佐藤之俊総務委員会委員長より開会する旨挨拶があり、定款 34 条の理事会の成立要件を満たしていることが告げられた。

理事長挨拶：佐々木寛理事長より

第 53 回（2014 年）秋期大会会長挨拶：亀井敏昭大会長より挨拶があった。

議事録確認（平成 26 年度第 1 回理事会）：前理事会の議事録が確認された。

報告事項

1 理事長報告（佐々木 寛理事長）

理事長在任中に、公益法人化・ガイドライン作成・LBC 加算が実現した。現在の懸案事項としては、婦人科細胞診の管理加算の実現と日本専門医機構による細胞診専門医の認定が挙げられている。それらの実現に向けて努力中であることが述べられた。

2 副理事長報告

岩坂 剛副理事長：専門医制度の制度設計に携わっていること、第 55 回春期大会、第 53 回秋期大会における細胞診専門医セミナーおよび細胞診専門医研修指定講座の選定を行ったことが報告された。

若狭 研一副理事長：専門医制度の制度設計を実施したことが報告された。

土屋 眞一副理事長：ガイドライン作成を担当したことが報告された。

青木 大輔副理事長：財務については池田徳彦計理委員会委員長とともに、公益法人化に伴う一連の出納について確認を行っていること、IAC については、長村義之 IAC 連絡委員会委員長と連携をとりながら IAC の動向を確認していること、国際交流については内藤善哉国際交流委員会委員長を主体として関わっていることが報告された。また、現在理事候補者選挙管

理委員会の委員長として理事候補者選挙を行っていることが報告された。

3 庶務報告 (佐藤之俊 総務委員会委員長)

全会員数：11,942 名 (医師会員 4,649 名, 技師会員 7,265 名, 図書会員 28 件)

細胞診専門医数：2,689 名 (実数)

F I A C : 110 名 M I A C : 38 名

細胞検査士数：7,128 名 (実数)

C T (I A C) : 4,737 名

物故会員

(正会員)

名誉会員 山邊 徹 先生

貝原 信明 先生

功労会員 谷本 一夫 先生 ((株)アルプ アルプ病理研究所 顧問)

細胞診専門医 菊地 泰 先生

櫻井 宏治 先生 (J A北海道厚生連旭川厚生病院 病理)

細胞検査士 池津 芳衛 殿 ((株)城南病理センター 代表取締役)

黙禱

4 第 56 回 (2015 年) 春期大会準備状況：

大会長：紀川 純三 会期：平成 27 年 6 月 12 日 (金) ～14 日 (日)

場所：くにびきメッセ・松江テレサ (島根県松江市)

5 第 54 回 (2015 年) 秋期大会準備状況：

大会長：越川 卓 会期：平成 27 年 11 月 21 日 (土)・22 日 (日)

場所：名古屋国際会議場 (愛知県名古屋市)

6 第 57 回 (2016 年) 春期大会準備状況：

大会長：青木 大輔 会期：平成 28 年 5 月 27 日 (金) ～29 日 (日)

場所：パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)

7 第 55 回 (2016 年) 秋期大会準備状況：

大会長：横山 繁生 会期：平成 28 年 11 月 18 日 (金)・19 日 (土)

場所：B-ConPlaza (別府国際コンベンションセンター。大分県別府市)

8 報告事項

総務委員会 (委員長 佐藤之俊)

[報告事項]

1. 平成 27 年度・28 年度の理事候補選挙の実務を担当した。
2. 事務局の役割分担について：事務局の各事務員が分担している業務内容が配布され、担当業務に応じて事務局に仕事を任せるように要請があった。

[審議事項]

1. 次期理事長選挙について：地方選出理事候補者選挙が 2015 年 2 月中に終了予定。理事会運営に関する施行細則第 1 条に則り、3 月に新理事候補に対して、理事長候補への立候補受付を通知する予定。慣例により総務委員長が選挙管理委員長を務める。
2. 会員種変更について：会員種を年度途中で変更する際の会費についてのルールが明文化されていないため、「会費等に関する規程」の改定案が示され、年度途中での会員種の変更であっても差額の会費納入を行うこと等の改定案が承認された。次回総会において改定案の決議を

行う。

3. 評議員選任について：会員種変更に伴う事務手続きの混乱を回避する目的で「評議員選任に関する施行細則」の改定案が示された。評議員選任のための業績を正会員の期間になされたものに限る点について是松理事より周知期間が短いとの指摘があり、慎重に討議した結果、改定案の改定日を平成 26 年 11 月 7 日とし、施行を平成 29・30 年度の評議員選出時からとすることで合意され、承認された。

情報処理委員会（委員長 石井保吉）

〔報告事項〕

1. 情報開示の要請が、5 件あり対応した。
2. HP への掲載願いが 2 件あり対応した。
3. 総会出席あるいは委任状の提出を依頼するため、細胞検査士会代表者会議のメーリングリストを活用し検査士会員に情報を配信した。
4. 学会 HP の改修・進捗状況について
現在、2 社の HP 作成業者の選択がされている。HP の作成に詳しい小川勝成 情報処理委員に 10 月 4 日に行われる会議に出席して頂き、HP の構築を加味し業者を決定する。

〔審議事項〕

1. 二社の内の一社マイス・ワン（コングレの子会社）に関して、現況の学会開催でも依頼活用していること、2016 年に開催する国際学会でも依頼しているなどの実績を踏まえ、マイス・ワンを選定したいとの意見が提案され、竹島編集委員会委員長より、電子ジャーナルの閲覧のしやすさについての質問があったが、その点については問題ない旨の説明が池上事務局よりなされ、マイス・ワンと契約する方向性が承認された。

医療安全委員会（委員長代理 佐藤之俊）

〔報告事項〕

1. MSC ホットラインの案内をイエローページに掲載した。本年度の利用実績は 0 件である。
2. 第 53 回秋期大会において医療安全セミナーを実施する。
「細胞診と医療事故—事故・紛争発生の原因と対策」
演者：水澤亜紀子（新伝馬法律事務所 弁護士・医師）

〔審議事項〕

特になし

倫理委員会（委員長 中村直哉）

〔報告事項〕

特になし

〔審議事項〕

1. 理事長が所管する小委員会として、臨床試験審査小委員会を作ることが発案された。背景としては、本学会が学会主導で臨床試験を行うようになってきているため、各施設の IRB だけ

ではなく学会としても内容の精査や経過の確認をする必要があるため、との説明がなされた。青木大輔副理事長より作業がより煩雑になることについての懸念が述べられたが、報告様式などについては、できるだけ簡略化することを考えているとの回答があった。今後本提案についてさらに議論を行うことが承認されたので、ご意見をいただき、今年度末の常務理事会で承認を得られれば、2015年度から活動を開始する予定である。

利益相反委員会（委員長代理 佐藤之俊）

〔報告事項〕

1. 平成 26 年度 COI 自己申告書の確認を平成 26 年 7 月 8 日に行ったが、COI 申告違反者はなかった。
2. 日本医学会 122 分科会における医学研究に係る利益相反（COI）対応の現状アンケートを平成 26 年 9 月 22 日付で回答した。
3. 平成 26 年 11 月 28 日に日本医師会館で開催される第 5 回日本医学会分科会利益相反会議に岡本委員長が参加予定である。

〔審議事項〕

特になし

学術委員会（委員長 紀川純三）

〔報告事項〕

1. 各賞候補者

学会賞 亀井敏昭

推薦理由：中皮腫の細胞診断に尽力され、多くの業績を挙げられた。また、本会の発展に大いに貢献された。

技師賞学術部門 石田克成

推薦理由：多くの学術論文、学会発表があり、学術部門の候補に相応しい。

技師賞功労部門 大塚重則

推薦理由：検査士会の中心的役割を長年果し、教育にも尽力された。

班研究 該当なし

〔審議事項〕

上記の提案事項すべてについて承認が得られた。

計理委員会（委員長 池田徳彦）

〔報告事項〕

特になし

〔審議事項〕

1. 平成 25 年度決算報告修正について：内閣府より決算書の補正についての指導があり、
(ア)貸借対照表・財産目録・財務諸表の中の頸部細胞診支援システムのための積立金を流動資産・普通預金から固定資産・特定資産上で、頸部細胞診支援システムのための積立金

の名称で表示する。

(イ)正味財産増減計算書内訳表の中の図書会員受け取り会費の半分を公益目的事業会計として計上し、残り半分以上を法人会計に計上する。

以上2点の修正が求められたとの報告があり、修正が承認された。

編集委員会（委員長 竹島信宏）【資料 9P】

〔報告事項〕

1. Vol. 53 (No3-4)を発行した。
2. 投稿規定に関して
学会雑誌における光顕写真に「scale の挿入が望ましい」と変更した旨報告された。
3. 業務多忙のため、編集委員および査読委員の増員を行った旨報告があった。
4. 電子ジャーナル化に関し数社による入札の結果、インテルナ出版社と契約することが報告された。

〔審議事項〕

1. 電子ジャーナル化の開始時期について
前回理事会では2年間の移行期を置く予定であったが、財政状況によりこの移行期間の廃止が提案され、可及的速やかに移行することが承認された。
2. 抄録集について
抄録号の電子ジャーナル化は更に大きな費用の削減になることが説明され、抄録集についても電子媒体で配布することが承認された。

細胞診専門医委員会（委員長 植田政嗣）

〔報告事項〕

1. 平成26年度細胞診専門医資格認定試験について
平成26年度細胞診専門医資格認定試験は平成26年11月30日（日）にAP浜松町で行う予定であること、受験予定者120名（医師110名、歯科医師10名）であることが報告された。
2. 細胞診専門医資格認定試験実施要項について
医師は全て昨年同様総合科を受験することが確認された。筆記試験、印刷物による細胞診断試験および検鏡試験すべての解答形式は多肢択一式となり、本年より解答用紙もOCR（光学文字認識）化することが報告された。
3. 細胞診専門医資格更新について
平成26年度の資格更新対象者は、専門医番号594-683, 1006-1101, 1309-1386, 1588-1646, 1877-2028, 2367-2476, 2766-2849で、第53巻2号イエローページならびにホームページで公告予定であることが報告された。
4. 教育研修指導医認定について
現在の教育研修認定施設は188施設、同所属細胞診専門医は500名である。全員に教育研修指導医認定申請案内を送付した旨が報告された。

〔審議事項〕

特になし

施設認定制度委員会（委員長 亀井敏昭）

〔報告事項〕

1. 平成 26 年度教育研修施設申請について下記のとおり報告された。
従来の 6 月 30 日締切りの申請施設は 49 であった。その後、社団法人日本病理学会の認定施設責任者（黒田誠日本病理学会副理事長）との話し合いの結果、日本病理学会認定施設の中で、日本臨床細胞学会認定施設として登録されている施設に、教育研修施設申請の推奨を行った。依頼状を 7 月下旬に送付、8 月末を締切りとした。
その結果、合計 70 施設が追加審査の対象となったが、委員長及び施設認定制度委員会教育研修施設 WG のメンバー（9 名）で合計 119 施設に対して審査を実施した（9 月 27 日）。最終判断としては、119 施設共に認定可とするが、急な対応ということもあり、書類不備な点を整備することを条件とした。
2. 新規施設認定について
 - 1) 平成 26 年度は 13 施設の申請があり、委員会内で審査実施の結果認定した。
結果は日本臨床細胞学会雑誌第 54 巻第 1 号イエローページに会告として報告予定。
3. 2013 年度年報提出状況（提出締切 平成 26 年 3 月 31 日）
全 858 認定施設中 提出済 788 施設（92%） 未提出 70 施設（8%）
☆年報についての整理：すでに終了し、第 54 回第 2 号にてイエローページに掲載予定。
4. 内部精度管理（実地調査）について
 - 1) 平成 26 年度実施調査は、内部精度管理ワーキンググループ（笹川基 WG 長）のもとで、3 施設を対象として実施（平成 26 年 8 月～9 月）された。
5. 外部精度管理（コントロールサーベイ）について
 - 1) 外部精度管理 WG 活動（コントロールサーベイ）
平成 25-26 年度に実施するコントロールサーベイに関しては、廣川満良 WG 長と小島勝先生を中心に企画し、全国の認定施設にバーチャルスライドの入った DVD を配布した。回答は、10 月 31 日を締切りとしている。
6. 認定施設更新業務について下記のとおり報告された。
 - 1) 2013 年度認定施設更新 対象施設 64 施設
更新可 55 施設（85.9%） 更新可として書類を送付
未完了 0 施設、未申請 6 施設（9.4%）、更新辞退 3 施設（4.7%）
 - 2) 2014 年度認定施設更新 対象施設 35 施設
更新可 26 施設（74.3%） 常務理事会報告後、更新可として書類を該当施設に送付予定（未完了 3 施設、理由：年報未提出、未申請 6 施設）
7. 教育研修施設更新業務について下記のとおり報告された。
 - 1) 2013 年度教育研修施設 対象施設 44 施設

更新可 42 施設 (95.5%)、未完了 2 (4.5%)、未申請 0

2) 2014 年度教育研修施設更新 対象施設 122 施設

更新可 97 施設 (79.5%)、未完了 9 (7.4%)、未申請 15 (12.3%)、更新辞退 1 (0.8%)

〔審議事項〕

特になし

細胞検査士委員会 (委員長 越川卓) 【資料 22P-24P】

〔報告事項〕

1. 平成 26 年度 (第 47 回) 細胞検査士資格認定試験

志願者総数は 709 名で、このうち 115 名が 1 次試験免除のため 1 次試験の志願者数は 594 名となった。1 次試験は平成 26 年 10 月 26 日 (日) に東京富士大学 (関東) および C I V I 新大阪東研修センター (関西) で実施した。

2. 平成 26 年度細胞検査士試験問題作成委員会

平成 26 年 7 月 21 日 (月)、平成 26 年 8 月 24 日 (日)、平成 26 年 9 月 14 日 (日) の 3 回にわたり、委員会を開催して筆記試験および細胞像試験の問題を作成した。

3. 下記の 3 点についての申し合わせ (内規) が作成され、報告された。内容について理事会としても承認した。

(ア) 細胞検査士資格認定試験 1 次試験免除資格の延長

(イ) 細胞検査士資格更新の申請が締切りを過ぎた者の措置

(ウ) 細胞検査士資格更新における学生料金による参加証の取扱い

4. 2014 年 CT(IAC) 資格更新審査

2014 年 CT(IAC) の資格更新審査の結果、112 名の CT(IAC) が資格を更新した。

5. 2015 年 CT(IAC) 資格更新審査

2014 年 12 月に更新期限を迎える CT(IAC) を対象として資格更新審査を実施する。

6. 2015 年 CT(IAC) 資格認定試験

2015 年 CT(IAC) 資格認定試験は平成 27 年 6 月 28 日 (日) に AP 浜松町で実施する。

〔審議事項〕

特になし

細胞検査士資格更新審査委員会 (委員長 広岡保明)

〔報告事項〕

1. 平成 26 年度 細胞検査士資格更新について下記のとおり報告された。

対象者メンバー (ブルー・カード)

69～137, 273～363, 585～759, 1061～1146, 1558～1829, 2458～2692, 3458～3666,
4453～4725, 5350～5618, 6204～6369, 6944～7208, 7877～8158

更新予定者 : 2392 名

※平成 27 年 2～3 月に更新審査予定

※震災に遭った方は自己申告での申請も可能とし、できる限り救済する

〔審議事項〕

特になし

教育委員会（委員長 齋藤豪）

〔報告事項〕

1. 平成26年度の予定について報告された。

講習会	開催日	開催地・実施委員長
第123回細胞検査士養成講習会	平成26年7月7-19日	東海大学医学部・伊藤 仁
第39回細胞診断学セミナー	平成26年8月14-17日	日本教育会館・教育委員長
第67回細胞検査士教育セミナー	平成26年8月30-31日	日本教育会館・鷺谷 清忠 （(株)秋田病理組織細胞診 研究センター）
第68回細胞検査士教育セミナー	平成26年9月6日-7日	松下IMPホール・船本 康 申（社会医療法人財団大樹 会総合病院回生病院）
第68回細胞検査士ワークショップ	平成26年7月19-20日	関西ブロック：田路 英作 （大阪がん循環器病予防セ ンター） 開催場所：大阪医科大学
第69回細胞検査士ワークショップ	平成27年2月28日・3 月1日	中国・四国ブロック：中野 正行（四国細胞病理センタ ー） 開催場所：香川大学医学部

2. 平成27年度決定済みの予定

講習会	開催日	開催地・実施委員長
第124回細胞検査士養成講習会	未定	
第40回細胞診断学セミナー	平成27年8月6-9日	日本教育会館・教育委員長
第69回細胞検査士教育セミナー	未定	古田 則行（癌研有明）
第70回細胞検査士教育セミナー	未定	小川 隆文（兵庫県（株） 共同病理）
第70回細胞検査士ワークショップ	平成27年7月18-19日	東海・北陸ブロック：水野 幸恵（福井県立病院・CT） 講義：福井県立病院講堂 鏡検実習：福井大学医学部 基礎実習棟病理実験室
第71回細胞検査士ワークショップ	平成28年3月12-13日	九州ブロック：南部 雅美 （福岡大学筑紫病院・CT） 講義・鏡検実習：福岡大学 メディカルホール

〔審議事項〕

1. 受講料の返還について

「教育委員会主催の細胞検査士養成講習会、細胞診断学セミナー、検査士教育セミナー、細胞検査士ワークショップについて申込時に支払われた受講料について、返金は原則行わない」ということを明記することが提案され、承認された。

渉外・広報委員会（委員長代理 佐藤之俊）

〔報告事項〕

以下の関連諸会議に出席し情報を得た。

1. 平成 26 年度第 1 回衛生検査所調査指導中央委員会（2014 年 5 月 1 日）
2. 日本専門医制評価・認定機構平成 26 年社員総会（2014 年 5 月 8 日）
3. 日本臨床検査標準協議会第 9 期総会（2014 年 6 月 2 日）
4. 日本がん治療認定医機構 関連学会連絡委員会（2014 年 9 月 3 日）
5. 平成 26 年第 2 回衛生検査所調査指導中央委員会（2014 年 9 月 11 日）

〔審議事項〕

特になし

社会保険委員会（委員長 稲山嘉明）

〔報告事項〕

下記の通り報告された。

1. 社保委員会での議論で、次回診療報酬改正に向けた要望は、以下が挙げられている。
 - ・細胞診免疫染色（前回要望 400 点、第 1 位要望の予定）
 - ・液状化検体細胞診、増点
 - ・婦人科細胞診スクリーニングにおける自動化加算（未収載。前回要望、40 点）
 - ・細胞診断料（既収載、婦人科細胞診に拡大、240 点）
2. 次期改正にむけての提案書の第 1 次締切予定は、12 月 10 日である。

〔審議事項〕

特になし

地域連絡委員会（委員長 児玉省二）【資料 25P-26P】

〔報告事項〕

下記の通り報告された

1. 平成 25 年度全国地域連携組織活動報告、連合会活動報告を集積予定
2. 平成 24 年度支部活動報告、連合会活動報告は投稿予定
3. 平成 24 年度細胞診検体（定点観測）に関するアンケートの集計（報告済）
4. 全国地域連携組織および連合地域組織との連携：契約終了
地域代表者会議の開催（今年度秋期大会で開催）
5. 「子宮の日」の子宮頸がん検診推進活動支援について
平成 26 年度実施 38 地域に活動報告を提出していただき、実施地域に助成金各 5 万円を支払う準備中。検査士会からの書類提出は、契約した地域連携組織に費用を支払うこととした。
平成 27 年度の支援は、平成 26 年 1 月頃企画書の提出案内を予定。

〔審議事項〕

石井保吉理事より、「子宮の日」を本学会の公益事業として承認して欲しい旨の発言があり、全会

一致で承認された。

国際交流委員会（委員長 内藤善哉）

〔報告事項〕

以下の内容が報告された

1. 2国間交流

- 1) 第21回日本・タイ細胞診ワークショップ
開催日：2014年1月15日(水)～17(金)
開催地：チェンマイ
本学会会員ならびに同伴者を含めて30人が参加
- 2) 第13回日韓細胞診合同会議
開催日：2014年11月1日(土曜日)
開催地：江原道
- 3) 第22回日本・タイ細胞診ワークショップ
開催日 2015年1月14日(水)～16日(金)
開催地：プーケット島で開催予定。
- 4) 第6回日中細胞診合同会議は開催に向けて日程等調整中。

2. 国際・アジアフォーラム

- 1) 第55回日本臨床細胞学会春期大会（会長 中山裕樹）
開催日：2014年6月5日(木)～7日(土)
開催地：横浜（パシフィコ横浜）
国際・アジアフォーラム（Global Asia Forum）
担当；河合委員、長尾委員
アジア・オーストラリア・米国から演者を招聘
- 2) 第53回日本臨床細胞学会秋期大会（会長 亀井敏昭）
開催日：2014年11月8日(土)～9日(日)
開催地：下関
国際・アジアフォーラム（Global Asia Forum）
担当；加来委員、南部委員
- 3) 第56回日本臨床細胞学会春期大会（会長 紀川純三）
開催日：2015年6月12日(土)～14日(日)
開催地：松江
国際・アジアフォーラム（Global Asia Forum）
担当；山口委員、
- 4) 第54回日本臨床細胞学会秋期大会（会長 越川 卓）
開催日：2015年11月21日(土)-22日(日)
開催地：名古屋
国際・アジアフォーラム（Global Asia Forum）

担当；榎本委員、

3. 国際交流報告

1) カンボジア王国への病理・細胞診断及び病理組織、細胞診標本作製技術に関する交流。

4. その他

1) オーストラリア細胞学会 (ASC) の 2015 年の学会に JSCC との協同企画を行ってほしいとの申し入れがあった。

2) ヨーロッパ細胞学会 (ECC) の 2015 年の学会で Japanese session を行ってほしいとの申し入れがあった。

[審議事項]

特になし

制度審議委員会 (委員長 川本雅司)

[報告事項]

1. 理事会、総会承認に基づく定款、細則改定の実施

[審議事項]

1. 評議員選任に関する施行細則 会費等に関する規程の改定案：総務委員会での審議事項を参照

IAC 連絡委員会 (委員長 長村義之)

[報告事項]

1. IAC からの連絡事項について報告された。パリの ICC では利益の 50%が IAC に寄付され、寄付総額は 35000 ユーロであった。横浜で開催される ICC 2016 ではそれ以上の寄付が期待されているとのことである。

[審議事項]

特になし

第 19 回 IAC 国際細胞学会準備委員会 (委員長 青木大輔)

[報告事項]

下記についての報告がなされた

1. The 19th International Congress of Cytology (略称：ICC2016)開催要綱
会期 2016 年 (平成 28 年) 5 月 28 日 (土) ～6 月 1 日 (水) (5 日間)
会場 パシフィコ横浜 (神奈川県横浜市)

Key Dates の決定 (案)

Abstract submission start	September 10th, 2015
Abstract submission deadline	December 10th, 2015
Early bird registration deadline	March 31st, 2016
Hotel reservation deadline	April 28th, 2016
Late registration deadline	May 19th, 2016

第 57 回日本臨床細胞学会総会（春期大会）との同時開催について

会期 2016 年（平成 28 年）5 月 27（金）～5 月 29 日（日）（3 日間）

会場 パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）

演題登録等に関する詳細は未定。

2. 日本学術会議による ICC2016 との共同主催について

日本学術会議に対して共同主催を申し入れ、2014 年 2 月 3 日にヒアリングを受けた。共同主催の採択については保留という返答であった。再申請書類の提出依頼があったので 9 月 5 日に提出した。

〔審議事項〕

特になし

肺がん学会とのワーキンググループ（委員長 池田徳彦）

〔報告事項〕

1. 平成 26 年 11 月 13 日（木）第 55 回日本肺癌学会学術集会にて合同委員会を開催予定との報告がなされた。

〔審議事項〕

特になし

泌尿器細胞診の報告様式に関するワーキンググループ（委員長 金城満）

〔報告事項〕

下記の通り報告された

1. ASC/IAC を母体とする国際的な Paris system group (Prof. Wojcik & Prof. Rosenthal) と連絡を取りながら、泌尿器細胞診の新報告様式を検討し、以下の最終結果を得た。
 - 1) 新報告様式は基本的には記述式とする。細胞の癌らしさ(異型度)は 4 段階(カテゴリー)分類とし、最初に細胞診としては不適切な検体(細胞が全く載っていないもの、高度の血尿のため、剝離高度で上皮細胞成分がないものなど)を置き、全体としては 5 段階評価方式(検体不適 Inadequate、陰性 Negative for malignancy、異型細胞 Atypical cells、悪性疑い Suspicious for malignancy、悪性 Malignant)を取る
 - 2) Paris system group は 2016 年を期限としており、検討の最中であるが、出発の基本合意は HGUC (高異型度尿路上皮癌)の検出と報告を主眼とする事及び検体の適・不適に関しては本邦の新報告様式にも盛り込んだ。しかし、現在の所、LGUC をどう取り扱うかについて、極めて活発な論議がメールを介して行われており、最終決着を見ていない。Paris system と本邦様式と完全に一致するかどうかは現在の所、不透明である。しかし、当委員会としては国際ルールが 2016 年に完成しても、読み替えが可能な方法を考慮する。
 - 3) 各カテゴリーの HGUC のリスクや各カテゴリーの診断基準などの細かい内容は泌尿器細胞診ガイドライン(2015 年 3 月発行予定)に記載する。
2. 本委員会は 11 月の第 53 回日本臨床細胞学会秋期大会における理事会への最終答申を行い、

学会で新報告様式の全貌を公開し、その後ガイドライン作製を2015年3月に向けて行い、3月末に解散となる。

〔審議事項〕

1. 今後前向き研究による検証が必要であるため、「泌尿器細胞診新報告様式検証委員会（仮称）」の立ち上げ、および教育・普及目的で泌尿器細胞診（別府）カンファレンスへの事業委嘱についての提案がなされた。最終案の周知期間が不足しているため、ホームページで最終案に対するパブリックコメントを求める必要があるとの意見が述べられ、理事会としてもこの意見を支持することとなった。パブリックコメントを求めて最終案が確定した段階で上記の提案について再度審議することとなった。

細胞検査士スライド試験問題集作成ワーキンググループ（委員長 広岡保明）

〔報告事項〕

以下について最終報告がなされた

1. 平成26年4月【細胞検査士細胞像試験問題集】が医歯薬出版社より発刊され、8月末の時点で960部販売。
2. 平成26年10月に第53回日本臨床細胞学会秋期大会の抄録集に問題集の広告が掲載された時点でWGは終了した。

〔審議事項〕

特になし

細胞診ガイドライン作成ワーキンググループ（委員長 内藤善哉）

〔報告事項〕

以下の通り報告がなされた

1. 第55回日本臨床細胞学会総会（春期大会）で、婦人科（子宮体部・卵巣・外陰/膣/子宮頸部）、甲状腺、乳腺、体腔液の各委員長よりガイドライン内容について発表
2. 第53回日本臨床細胞学会秋期大会にてリンパ節/血液、消化管、肝胆道系、膵臓、口腔、唾液腺、皮膚/眼器（順不同）の各委員長よりガイドライン内容を発表予定。
3. 現在、peer reviewが終了、または、進行中で、問題点など金原出版社とともに協議し進めている。
4. 改訂される癌取扱い規約、WHO分類やベセスダシステムについても各臓器で検討。
5. 分冊の総論（暫定名称）部分についても、原稿が纏まりつつある。
6. 次回（第7回委員会）は、第53回日本臨床細胞学会秋期大会時に開催を予定
7. 2015年3月、細胞診ガイドライン発行予定。
8. 第56回日本臨床細胞学会総会（春期大会）で、未発表臓器の各委員長より内容の発表予定。

〔審議事項〕

特になし

口腔細胞診ワーキンググループ（委員長 関根浄治）

〔報告事項〕

1. 口腔細胞診精度管理 study の途中経過について報告された。

〔審議事項〕

特になし

婦人科臨床試験ワーキンググループ（委員長 青木大輔）

〔報告事項〕

下記の通り報告された

1. 「一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究」（山梨県、千葉県柏市）
2014 年 8 月 31 日現在、13,712 人の登録があった。現在、2 年目のフォローアップ症例について受診勧奨を行っている。
2. 本臨床研究の呼称を、CITRUS (CervIcal cancer screening TriaI by Randomization of HPV testing intervention for Upcoming Screening) Study として関係者に周知した。

〔審議事項〕

1. CITRUS Study のホームページの新規開設、および日本臨床細胞学会のホームページへリンクさせたい、との要望があり、承認された。
2. 研究協力費の増額について：現段階で研究協力費が不足しており、250 万円の追加予算の申請があり、了承された。

日本臨床細胞学会雑誌電子ジャーナル化ワーキンググループ（委員長 竹島信宏）

〔報告事項〕

1. 編集委員会〔報告事項〕1. と同様

〔審議事項〕

1. 編集委員会〔審議事項〕1. 2. と同様

頸部細胞診の自動化判定に関する研究班（委員長代理 佐藤之俊）

〔報告事項〕

1. 研究班の 9 施設から回収した約 12,000 例の自動化判定、そこから抽出された症例に対する再検討がほぼ終了し、外部機関に統計解析を依頼している。
2. 付随研究として、細胞検査士による評価者信頼試験を実施中（各施設に標本を回覧中）である。
3. 第 56 回春期大会で、研究総括の報告をさせていただければと考えている。

〔審議事項〕

特になし

細胞診用語解説集作成ワーキンググループ（委員長 竹島信宏）

電子媒体で用語解説集の作成をガイドラインと並行する形で行っていることが報告された

理事候補者選挙管理委員会（委員長 青木大輔）

〔報告事項〕

全国選出理事候補者選挙結果について

2014年10月4日に開票が行われ、下記の22名が選出され、10名の次点が決定した旨の報告がなされた。

当選者（五十音順）：

青木大輔，池田徳彦，石井保吉，伊藤仁，植田政嗣，岡本愛光，加来恒壽，加藤久盛，河原栄，紀川純三，越川卓，小松京子，齋藤豪，佐藤之俊，竹島信宏，内藤善哉，中村直哉，藤井多久磨，前田一郎，森井英一，森谷卓也，八重樫伸生

次点者（上位より掲載）：

横山繁生，広岡保明，岡輝明，九島巳樹，谷山清己，井上健，稲山嘉明，平井康夫，関根浄治，今野良

9 審議事項

1. 会員資格喪失者の会員資格復活について：会費滞納に伴う会員資格喪失者のうち4名より内規に則った復活申請が行われたため、審議した結果、全員の会員資格復帰が認められた。
2. 第58回（2017年）春期大会の会長選出について：植田政嗣理事が推薦され、承認された。
3. 青木大輔副理事長より、厚生労働省科学研究委託事業「平成26年度HPV検査検証事業のフォローアップ調査事業の実施について」（研究代表者：国立がん研究センター齋藤博）から本学会会員へのアンケート調査実施の要請があり、学会として協力することが承認された。

10 その他

特になし

閉会の挨拶：青木大輔 副理事長


以上を以って本理事会の議題が終了し、平成26年度第2回理事会を終了した。

平成 27年 5月 19日

この議事録が正確であることを証します。

理事長 佐々木寛 

監事 柏村正道 

監事 長谷川壽彦 

監事 長村義之 